

魅力発信！えひめ農業NOW

令和2年 10 月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業NOWは、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業の魅力発信

※2 この動向は、10 月中に各普及地区から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

「魅力発信！えひめ農業NOW（10月分）」

東予地方局 地域農業育成室

■集落見回り活動で、集落柵設置により鳥獣害から農地を守る！

- 地域農業育成室は10月14日に西条市飯岡地区、10月29日に新居浜市船木地区で鳥獣害対策のための集落見回り活動を実施し、両地区で農家・関係者16人が参加した。
- 活動では、鳥獣による被害や防護柵設置の状況を確認し、今後の対策実施に向けての技術指導等を行った。
- 飯岡地区では、水稻へのイノシシ被害が多発する農地を守るため、集落内の広範囲柵の設置を検討しており、効果的な集落柵設置に向け集落リーダーを対象とした研修会を開くこととした。
- 今回確認した内容は、地図に記入して資料化し、集落での鳥獣害対策に活用していく。



防護柵を点検



サルによる柿の食害

■地元レストランとこだわり食材の連携を

- 地域農業育成室は、飲食店と連携し農産物や農業の魅力発信に取り組んでいる一次産業女子組織「たべとうみん」の活動を継続的に指導・支援している。
- 西条市内のフレンチレストラン「Ville Natale」から、生産者の顔が見えるメニューを提供していきたいとの要望があったことから、10月14日、同店でメンバーが生産した農畜産物を食材とした8品のメニューの試食を行った。
- 事前に農畜産物のリストやこだわりなどを伝えており、料理の中には食材の良さが引き出されていた。今後は、食材の提供を連携して行っていく予定。
- また、11月にはメンバーのほ場で、消費者を対象にした「里芋収穫体験&実食」を計画しており、収穫体験の指導を通じて地産地消の推進や農業のPRを女性目線で伝えていく。



試食会の様子



彩よく添えられた旬の野菜

東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班

■ さといも秋季講習会で土づくりを徹底

- 四国中央農業指導班は10月20～21日、JAうま営農指導課と連携し、さといも講習会を開催。
- 今回の講習会は、①愛媛さといも広域選果場の荷受け・出荷状況、②今年の生育概要と展示ほにおける成果、③次年度栽培ほ場の土づくり対策などを報告・指導。
- 3地区のJA経済センターで88名が参加し、疫病の防疫成績、品質低下要因及び土づくり対策などの質問が寄せられた。
- 当班では今後、収穫時選別の徹底を図り、高品質出荷を目指す。



映像を活用した講習会の様子

※四国中央地域におけるさといも講習会は、年3回（5、7、2月）に開催。今回の秋季講習会は、栽培ほ場の土づくりを図るため初めて開催。

■低迷しているお茶の販売支援

- 地域農業育成室は、コロナ禍で現在も取引減等により低迷している四国中央市産のお茶及びお茶関連商品の販売を支援するため、10月23日に東予地方局及び管内5市町の職員を対象に、斡旋販売を行った。
- その結果、東予地方局約21万円、5市町約84万円、合計約105万円の売上となったことから、製茶業者等からは、予想以上の販売協力への感謝の言葉があった。
- 今後、気温が下がり茶の需要期を迎えることから、当室は年末商戦に向け活発化する販売活動を支援していく。

■天満上集落の活性化に向けて

- 四国中央農業指導班は10月27日、市農業振興課とともに、天満上集落のリーダー2人と今後の方向性について話し合いを行った。
- 同集落は普及ビジョンのモデル集落として位置付けているが、担い手の現状や将来性が不明確であることから、将来の集落ビジョンを策定するためには、まず、地域の現状と農家の意向を把握することの必要性を再確認した。
- 今後、更に次世代の集落リーダー候補者等の意見を踏まえ、アンケート調査により、集落の担い手に係る現状と近い将来の担い手の意向の把握を実施していく予定。

東予地方局 産地戦略推進室

■新花材メラレウカ栽培塾を開催

- 産地戦略推進室は10月2日、JA周桑西部センター（西条市丹原町）で花木栽培塾を開催し、メラレウカ生産者等8人が参加した。
- これは、昨年度から取り組んでいる「新花材ピットスポラム等生産力強化事業」の一環で行ったもので、10月中旬から始まる出荷に向けてメラレウカの収穫調整作業の実演・実習を行い、新規生産者の栽培技術向上を図った。
- 今後は、市場で有利販売を行うため、秀品率の向上や計画出荷等の指導を行う。



出荷調整作業の実演状況

■省力いちご栽培を目指して、天敵を共同導入

- 産地戦略推進室及び四国中央農業指導班は、農薬散布の削減による省力的ないちご生産を目指して、天敵昆虫の活用を核とした害虫防除体系を推進している。
- 講習会や個別巡回を通して、JAうまいちご部会員に対し天敵導入を働きかけたところ、部会で共同導入することとなったため、10月30日に、天敵製剤製作の共同作業を支援した。
- 今後もJAうまと連携して、天敵と害虫の定期的なモニタリングを行いながら、省力栽培を後押ししていく。



共同作業の様子

東予地方局今治支局 地域農業育成室

■愛媛果試第28号（紅まどonna）の品質向上に向けて現地実証試験を実施中

- 地域農業育成室は、愛媛果試第28号（紅まどonna）の品質向上に向けて“赤色笠掛けシート”の現地実証試験を実施している。
- 本試験は、施設栽培での果実着色促進、露地栽培での果実雨よけ・保護を狙いとして品質向上を目指すもの。
- 現時点での効果は、施設栽培で赤色笠掛けシートの方は無被覆よりも1割程度着色が進んでいる。



赤色傘掛けシート



被覆状況

※赤色傘掛けシートは、大きさ：250 mm×300 mm、構成：不織布／ポリエチレン製。

■JA直売所「さいさいきて屋」と「道の駅 今治湯ノ浦温泉」との商談支援

- 地域農業育成室は、10月8日にJAおちいまばり営農販売部を交えて「さいさいきて屋」と「道の駅 今治湯ノ浦温泉」との商談支援を行った。
- これは、道の駅からレストランで使用する今治産農産物の比率を現在の20%から80%に増やしたいとの意向を受け実施したものである。
- その結果、①道の駅はレストラン食材を中心にさいさいきて屋から仕入れる。②さいさいきて屋は道の駅の今治産農産物を使用した加工品（はちみつレモン等）を販売する。③JAおちいまばりは、当室の協力を得ながら道の駅との連携を模索することとなり、早速、道の駅は米・野菜等を仕入れ、さいさいきて屋はカフェで加工品を販売する準備を進めている。
- 本商談により、「道の駅」のSNS等による県内外に向けた高い情報発信力と、「さいさいきて屋」及び「JAおちいまばり」の今治産農産物の生産推進・調達力が結びつき、今後の今治地域の農業振興とより一層の地産地消の促進につながるよう、当室では引き続き両者の連携を支援する。



商談の様子

■さといも「媛かぐや」地域特産品をめざして、出荷協議会を開催

- 今治管内では、愛媛県が開発したさといも「媛かぐや」（親芋用品種）を3戸が10aで栽培しており、「伊予美人」とは違う「ほくほくした食感」と「ほんのりした甘味」が人気である。
- 今年は台風の影響も少なく順調な生育であり、出荷は11月1日から12月15日を予定しているが、例年1.5kg/個を超える芋が多く、青果として一般消費者に販売するには不向きである。
- そこで、地域農業育成室では、セル苗定植と2条千鳥植え密植を組み合わせることで生育を抑えることにより500g/個程度の芋を生産する新たな栽培方法を栽培者へ提案し、次作より取り組むこととなった。
- 当室は、出荷協議会事務局であるJAおちいまばり「さいさいきて屋」と連携しながら、イベント等での一般消費者への販売促進を支援するとともに、新たな栽培方法の推進と新規栽培者の掘り起こし等を行っていく。



出荷協議会の様子



500g/個程度の媛かぐや

■今治産小麦の需要創出のため、地産地消活動推進会議を開催

- 地域農業育成室と産地戦略推進室は、10月8日、製粉業者、卸売業者、地元の実需者、JA、市等の関係者22人出席のもと「第2回今治産小麦地産地消活動推進会議」を開催した。
- 会議では以下のことが報告された。
 - ① 業務用需要拡大として「NPO法人かえで（福祉事業所）」が、今治産小麦を使用した食パン販売を10月20日より開始。
 - ② 一般需要拡大にむけて「吉原食糧（製粉会社）」が、一般消費者向けの小袋の製造を11月上旬から開始する予定。
 - ③ 料理教室や学校が教材として今治産小麦を使用している。
- 今後も今治産小麦粉の知名度向上のため、小袋販売開始の際には関係機関と連携しPR活動を行う。



推進会議の様子



今治産小麦を使用したパン

■「働き方改革」を考える農業講座を開催

- 地域農業育成室は、「働き方」を考える経営支援講座を10月2日に開催、青年農業者や女性農業者7人が参加。
- 当日は、軽労働で高品質かんきつ栽培が可能な、かん水や収穫作業のしやすい樹形づくり、車両が入りやすい園地づくり、低コストハウスの設置方法と、「農福連携」による労働力確保の仕組みを指導した。
- 参加者からは、自分の園地で具体的に指導してほしいとの要望があり、せんだ時期に園地を巡回する予定。



効率的に作業できる樹形を学ぶ



園内作業道について学ぶ



「農福連携」について学ぶ

■鳥獣害対策研修会を開催

- 地域農業育成室は、10月27日、集落リーダーや猟友会・関係機関職員等43人を対象に、鳥獣害対策研修会を開催した。この研修は、山間部を中心に野生動物による農作物の被害地域が拡大していることから、今後効率的な対策を導入するために開催したもの。
- 研修会では、株式会社野生鳥獣対策連携センターの阿部豪氏より、野生動物の生態や効果的な対策について指導を受けた後、水稻の鳥獣被害に遭っている集落で、防護と捕獲方法について学んだ。



講演の様子



現地指導の様子

今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班

■地域農業を取り上げた県高等学校総合文化祭応募作品の制作を支援

- しまなみ農業指導班岩城駐在は、10月17日、今治西高等学校放送部が県総合文化祭に応募する作品制作の協力のため、かんきつ産業に携わる県組織として取材に応じた。これは、高校生の視点から今治市内のかんきつ苗木業者（大西・明生農園）にスポットをあて、農業に取り組むことの魅力、新たな担い手となるきっかけづくりを目的に制作するもの。
- 国・県の試験研究と農業改良普及事業の農業振興に対する役割や、担い手確保と育成に関する取組について情報提供を行うとともに、実証ほ場の様子、苗木利用の現状や地元苗木生産者のメリット等について説明した。
- 制作にあたり、普通科高校での在校生アンケートでは、将来、農業をやってみたいという声はほとんどなかったとのことだが、当班では、こうした機会をとらえ、地元高校生に対して地場産業として農業の魅力発信を行っていく。

■鳥獣害に強い集落づくり（集落ぐるみでの鳥獣害防止対策）への取組に向けて

- しまなみ農業指導班では、10月23日、今治市上浦町瀬戸地区にて「鳥獣害防止対策集落見回り活動」を、農業者・猟友会・関係機関職員等13人参加のもと実施した。当活動は、鳥獣害防止対策強調月間（10月1日～31日）に合わせ、被害が多発する集落を重点的に見回り、鳥獣害の防止に向けた地域住民の意識啓発を図ることを目的に、毎年1～2集落を選定し実施しているもの。
- 当日は、集落環境の把握（被害状況やイノシシ等の侵入経路の確認）、被害防止対策の確認（防護柵等の見回り）等を行った。
- 当班から、ICT活用大型囲い罫実証事例や設置が容易な電気柵（スマートフェンスポータブル）等の情報を提供した。
- 当班は、瀬戸地区を新規モデル集落とし、集落ぐるみでの鳥獣害防止対策に向け、地域体制づくりを支援していく。



スマートフェンスと
ソーラーバッテリー



集落見回りの様子

※スマートフェンスポータブル：ポール、ワイヤーとリールが一体となっており、100m4段張りを最短10分程度で設置・回収することが可能。片手で引っ張るだけでワイヤー4段を一度に架線できる。回収もリールを巻くだけで、4段一気に巻き取れる。

東予地方局今治支局 産地戦略推進室

■中学生を対象としたオリーブ収穫体験学習会を開催

- 産地戦略推進室は、将来の農業の担い手確保につなげるため、10月18日、今治市立大島中学校の1年生24人を対象に、「収穫体験学習会」を開催した。
- 会では、地元の生産者が講師となり、オリーブの魅力や収穫作業のポイントなどをわかりやすく説明したのち、果実を1つ1つ丁寧に収穫した。
- 参加した中学生からは「収穫作業は楽しい」等、オリーブ栽培に期待を膨らませる声があった。



オリーブの魅力を説明している様子



収穫作業のポイントを説明している様子

中予地方局 地域農業育成室

■ 6次産業化研修により、視野を広げる！

- 地域農業育成室は10月14日、女性農業者の積極的な経営参画を図るため、東温農業女子会「とうおん媛の会」の5人を対象に6次産業化研修会を開催した。
- 会では、名誉農業指導士の藤井由紀枝氏が、夫妻で経営している「どぶろく工房・農家レストラン由紀っ娘」の取組について講話した。参加者らは、農家レストランでの地元の野菜を使った料理によるおもてなしを体験し、地域資源を活用した地域活性化の取組に理解を深めることができた。
- 当室から、SNSを利用した情報共有に向け、その有用性や他地区での導入事例等を紹介した結果、SNSのグループ機能を利用した情報共有を実施することになった。



熱心に藤井氏の講話を聞く女性農業者

■ 樹園地再編整備後の営農支援に向けて連携強化

- 地域農業育成室は10月20日、松山市及びJAえひめ中央、県中予地方局農村整備第一・第二課と連携し、「松山地区災害復興・樹園地再編ワーキングチーム」の現地検討会を開催した。
- 平成30年7月豪雨で被害を受けた高浜地区復旧モデル園では、当室で実証中の早期成園化対策（点滴かん水・液肥混入、防草シート敷設）やかん水の必要性など実証技術の有効性を報告した。
- 下難波地区では、農地中間管理機構関連事業を活用した基盤整備の工事進捗状況を確認するとともに、水源確保など今後の営農計画等について協議した。
- 管内では各地区でかんきつ園の基盤整備が計画されており、ワーキングチームが連携し、担い手への農地集積とスムーズな営農開始、施設化の推進による収益の向上を目指す。



高浜復旧園早期成園化実証の中間報告



下難波基盤整備工事に係る営農計画協議

■就農予定者の不安や悩みを青年農業者が解決！

- 地域農業育成室は10月23日、新規就農者の確保・育成を図るため、就農予定者17人と青年農業者5人による「青年農業者と就農予定者との座談会」を開催した。
- これは、「JA えひめ中央新規就農研修センター」の研修生が日頃抱えている不安や悩み、疑問に、先輩農家である松山地区青年農業者連絡協議会の理事が自身の体験談等をもとに回答するというもの。
- 会では、「企業から見た農業」と題して「グリーンセンターてんとうむし」の渡壁氏がこれからの情勢に合わせた農業の在り方について講演した後、資金の活用や労働力の確保、ネットでの販売等について活発な意見交換が行われ、就農予定者の不安を解消することができた。
- また、地域とのつながりや仲間づくりのため「青年農業者連絡協議会」への加入を勧誘し、就農後加入したいとの声が多数あった。



青年農業者との意見交換
(手前が青年農業者)



会終了後も青年農業者へ熱心に質問する
就農予定者

■女性農業者、商品開発に意欲

- 地域農業育成室は10月22日、テクノプラザ愛媛で女性の多様な起業活動を支援するため、中予地区の女性農業者20人を対象に「女性経営参画支援講座」を開催した。
- 会では、八幡浜市の(株)アトリウムの國分美由紀氏と企業組合高野地フルーツ倶楽部の清水香代子氏を講師に招き、マーマレード世界大会の開催を通じた町おこしや同大会での受賞をきっかけとした商品化、加工組織の法人化の取組について話があり、加工品を開発・販売するための実践的なアドバイスを受けた。
- また、中予保健所生活衛生課等から加工品製造に必要な衛生管理、食品表示について説明があり、新たな商品開発や経営強化に繋がる知識の習得を図った。



講座の様子

■いちごの収量増加に向けて

- 地域農業育成室は10月19日、東温市のJA えひめ中央東部営農センターで、いちご産地の生産振興を図るため、栽培農家32人を対象に「中予地域いちごセミナー」を開催した。
- 当室から、天敵利用による害虫防除や日中炭酸ガス施用による増収効果等の事例を紹介した後、現地で高収益モデル実証ほにおける寒冷紗被覆や細霧冷房の取組状況を説明した。
- 農家からは、天敵の定着状況の確認方法など多数の質問があり、新たな技術を導入したいとの声が聞かれた。
- 今後は、天敵導入の支援や、日中炭酸ガス施用方法等についての講習会を行い、栽培農家の所得向上を目指す。



室内研修



高収益モデル園での現地研修

■水田有効利用について関係者で協議

- 地域農業育成室は10月8日、水田農業の振興等を推進するため、「水田有効利用促進会議」を開催し、市町、JA等の委員ら13人が出席した。
- 会では、「ひめの凜」やはだか麦の生産拡大を申し合わせたほか、指導者向けの鳥獣害対策の進め方や、転作品目として有望な花き・花木の品種を紹介し、水田有効利用の推進や各種事業の周知を図った。
- 委員からは、事業内容のほか、収益性の高い花木や鳥獣害対策における農家と住民のトラブル解決についてなど多くの事例が紹介され、今後の水田農業のあり方について情報を共有した。

中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班

■伊予地区の一次産業女子「葉れるや」が「たべとうみん」と交流で大きな刺激！

- 伊予農業指導班は10月7日、伊予地区一次産業女子グループ「葉れるや」の資質向上を図るため、会員6人と東予地方の一次産業女子「たべとうみん」との交流会を開催した。
- 会では、双方の会員の経営内容や今後の方針等について意見交換を行うとともに、「たべとうみん」の設立経緯やマルシェへの参加、特産物を詰め合わせた「旬彩ボックス」の宅配便、共通ロゴの制作等の幅広い活動について研修した。
- 「葉れるや」は、今のところ定期的な組織活動は行っていないが、交流後には「何か少しからでも始めようや！葉れるやのロゴも作ろう！」など、刺激を受けた様子だった。
- なお、当班が若手女性農業者に対して「葉れるや」への加入の勧誘を行った結果、9月に2人が加入し、会員は9人となった。



視察・交流の様子

■まさきルーキーズがさといも栽培の結果を検証

- 伊予農業指導班は10月21日、集落営農組織「(株)まさきルーキーズ」に対し、さといもの収量調査と今年の栽培について反省会を開催した。
- 同社は、今年から約35aのほ場で栽培を開始し、今年産の収量は10a当たり約4tを見込んでいるが、管理を徹底すれば5t程度の収量が期待できるため、次期作に向けて、病虫害・雑草・かん水管理について指導した。
- 当班は、さといも栽培について、集落営農組織間で技術や販売等の情報を共有し、更なる所得向上を目指す。



さといもほ場の巡回指導

■一次産業女子が土づくりと秋野菜について学ぶ！

- 伊予農業指導班は9月28日、一次産業女子5人を対象に、土づくりと秋野菜についての講習会を開催した。
- これは、女性農業者から農業経営への参画に当たり農業の基礎知識習得や交流の場がほしいとの要望を受けて、今年度から講習会（3回）を企画したもの。
- 会では、堆肥や病虫害についての基本的な質問が多数あったほか、今後はブルーベリーやアボカドの栽培管理を学びたいなどの意見が飛び交い、意欲的な姿勢が見られた。
- また、参加者は、農家になった理由や苦労したこと等自ら意見を交わし、連絡先を交換するなど積極的な交流となった。



講習会の様子

■栗の収穫がほぼ終了、中山栗モデル園地では安定して高収量を記録！！

○今年度の中山栗は、10月末で収穫がほぼ終わり、生産量は約125tの見込みとなった。梅雨明け後の干ばつで小玉果が多いことに加え、収穫直前の台風の影響などの悪条件が重なり、平年（150t）に比べやや少ない生産量であった。



目標達成のモデル園の中山栗

○一方で、伊予農業指導班が地方局予算「中山栗産地力向上促進事業」の一環で設置したモデル園（12園のうち10園地で収量集計が完了）では、平均収量が目標の200kg/10aを超え、223.8kg/10aとなった。モデル園地の平均収量は地域平均（約45kg/10a）と比較すると、ここ3年間安定して高収量を達成し、技術を実証することができた。（H31：167kg/10a、R1：171kg/10a）

○今後、当班は、モデル園の技術をまとめた栽培啓発パンフレットの配布や、剪定講習会を開催し、栽培農家への技術の普及を図る。

■鳥獣対策講習により、意識の醸成を図る！！

○伊予農業指導班は10月12日、伊予市中山町で「鳥獣管理専門員育成事業」の一環で、鳥獣対策講習会を開催し、イノシシを中心とした獣類への対策技術の向上を図った。



ワイヤーメッシュ柵の設置講習の様子

○会では、地域の猟友会や認定農業者、青年農業者等15人を対象に、センサーカメラ映像を用いた獣類の出没状況を報告するとともに、現地で防護柵の設置方法について講習した。

○農家からは、すでに設置している防護柵についてもワイヤーメッシュに表裏があることや、電気柵の電圧確認方法など「初めて知った技術も多かった」といった声が聞かれ、正しい設置方法を普及できた。

■サラリーマンを対象とした休日の就農相談会を初めて開催

○伊予農業指導班は10月4日の日曜日、伊予市農業振興センターと連携し、サラリーマン等平日の来庁が困難な方を対象とした就農相談会を開催した。



就農相談の様子

○当日は、事前に申し込みのあった4組の相談者に対し、希望する経営内容等を聞き取り、就農支援制度や就農準備研修の説明、就農計画作成のアドバイスを行った。

○中には、コロナ禍の影響で仕事が減少し農業経営を思い立った相談者もあり、今後もこのようなケースの相談者が増加することも考えられることから、同センターでは今後も休日に相談会を開催し、新規就農者の確保を目指す。

中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班

■久万高原ブランドづくりに向け協議

- 久万高原農業指導班は10月13日、地方局予算「久万高原の漬物向け野菜産地再興事業」の一環で「第2回久万高原ブランドづくり推進会議」を開催し、漬物向け高原野菜の生産拡大と商品開発を協議した。
- 会では、当班の実証ほ場における品種試験結果や連作障害対策等の中間報告、今後の漬物開発について意見交換し、アドバイザーの大塚名誉教授（松山東雲短期大学）から、減塩漬物の製造方法と課題、漬物のトレンド等の助言があり、今後の商品開発に生かすことになった。



推進会議の様子

■青年農業者がトマト栽培を研修生に伝授

- 久万高原農業指導班は10月15日、生産性の高い青年農業者のほ場で、「**新規就農者育成 Program**」※（暫定版）に基づき、農業公園研修生6人を対象にトマトの栽培研修会を開催した。
- トマトの出荷を11月まで継続するため、当班から肥料の効果的なやり方や病害虫対策を指導し、その他技術等について説明した。
- また、青年農業者がトマト栽培で工夫していることや作業のコツなどを細かく教え、研修生からは土づくりや栽培管理の方法について熱心に質問があり、有意義な研修となった。



研修生と青年農業者(右)



普及指導員(右)から栽培方法を学ぶ

※「新規就農者育成 Program」：トマト産地の復活を目指し、営農支援センターを核とした受入体制の整備や人材育成をワンチームで行うための活動行程。

中予地方局 産地戦略推進室

■「東温パクチースタンプラリー」の開催に向け準備着々

- 産地戦略推進室は、地方局予算「東温パクチー産地づくり事業」におけるPR活動の一環で、12月から東温市内の飲食店で「東温パクチースタンプラリー」を計画している。
- スタンプラリーは、イタリアンやスペイン料理店などの飲食店が東温パクチーを使った店舗独自の料理を提供することで、消費者にプロの料理を堪能してもらい、東温パクチーの認知度向上と消費拡大につなげるのが狙い。
- 現在、8店舗の賛同を得て、12月に1ヵ月の期間限定で開催予定であり、当室では期間中、多くの消費者の方に開催店舗を巡っていただけるよう、メディアや県ホームページ、SNS等を活用してイベントの周知を行う。



「東温パクチースタンプラリー」の開催料理店

■「甘平」の連年安定生産に向けた結実管理を実証

- 産地戦略推進室は、「甘平」の隔年結果対策に有効と考えられ、かつ処理が容易な「大枝別交互結実法」の効果について実証を行っており、5～9月にかけて管内4ヶ所の農家園地で着果量を調査した結果、通常栽培に比べ3年連続で安定した着果量が確保されていることを確認した。
- 生産者からは、「他の樹に比べて実証樹は着果量が安定している」、「樹勢が落ち着いて良い樹形に近づいてきた」などの声が聞かれ、大枝別交互結実法が「甘平」の隔年結果改善に有効な技術であると期待されている。
- 当室は、引き続き収穫期の2月まで、着果状況や果実品質、収量調査等を行い、得られたデータをもとに同技術を検証し、講習会等を通じて農家に普及する。



「甘平」大枝別結実法の着果状況

■「さくらひめ」鉢物の育て方をホームページでPR!

- 産地戦略推進室は、「さくらひめ」のリレー出荷体制拡大に向けて、9月から11月まで複数回の定植を生産者に提案し、現在、管内の3戸の生産者が順次作付を行っている。
- 9月定植分については、定植前後の寒冷紗被覆やかん水の徹底等を指導し、活着後、**早期抽台※**することなく順調に生育。10月定植分についても、定植後の活着は良好であり、11月定植に向けた自家育苗については、施肥指導を重点に行い、現在、順調に経過している。
- 鉢物については、一部の生産者が、10月下旬から県内外の市場や花屋等に出荷を開始したのに併せ、当室は、生産者から要望のあった「さくらひめ」鉢物の育て方を産業振興課HPに掲載しており、鉢物「さくらひめ」のPRに繋げることにしている。



抽台の様子



鉢物「さくらひめ」の育て方

※早期抽台：株が十分な成長をしないうちに、花芽をつけた茎が伸長すること。早期抽台すると、小花数が減少し、切り花品質が低下する。

南予地方局 地域農業育成室

■南予地域の担い手育成に向け新たな農山漁村女性ビジョンの検討

- 地域農業育成室は10月2日、令和7年度を目標とする新たな農山漁村女性ビジョンを検討するため、同ビジョン地区連絡会議を南予地方局で開催し、農業指導士やJA女性理事などの地区リーダー、市町、農業委員会など関係者21人が出席した。
- 会議では、地域の担い手不足、組織への加入者数の減少、地域リーダーの人材育成等の課題が提起され、男女共同参画社会の形成には、家族経営協定や認定農業者育成について、引き続き行政のバックアップが重要との意見が上がった。
- 当室では、男女共同参画の推進体制や関係機関・団体への意識啓発など、女性が能力を十分発揮し、生き生きと活動できる環境づくりに取り組む。



コロナ感染予防対策をとり開催

■宇和島市西三浦地区の農業者と連携して鳥獣害防止対策方法を検討

- 地域農業育成室は、10月の鳥獣害防止対策強調月間に先立ち、9月28日、宇和島市西三浦地区で鳥獣害防止対策に係る集落見回り活動を実施し、地域の農業者5人が参加した。
- 当日は、昨年度に設置した防護柵を点検し、中型獣種による侵入痕と倒木による防護柵の損壊を確認後、有効な方法で補修した。
- また、集落内の被害多発箇所や耕作放棄地において獣道や獣種を確認し、罠の設置方法や環境改善、防護柵を活用した集中的かつ効果的な捕獲について、猟友会と連携して取り組むこととした。
- さらに10月2日、近年多発傾向にあるノウサギによる苗木被害を防止するため、資材メーカーと連携して苗木被害防止用金網の実証試験を開始し、これまでの肥料袋によるスカーティングとの比較や費用対効果を検証する。
- 当室は、今後も集落の農業者や関係機関と連携しながら効果的な鳥獣害対策技術を検討する。



防護柵の補修



苗木被害用防止金網

■東中予農業関係高校の就職担当教諭が農業法人を見学

○地域農業育成室は10月13日、農業関係高校5校の就職担当教諭6人を対象に、南予での農作業現場や雇用状況を理解してもらうため、局予算「南予農業魅力発信支援事業」を活用し、第1回南予農業見学会を開催した。

○見学会では伊方町の「株式会社ニュース」、八幡浜市の「株式会社橙果園」で会社説明と見学を行った。

○参加教諭からは、「求人票だけでは分からない部分を生徒に説明できる」「農業法人とつながりができた」といった意見があった。

○今後は、南予地方局管内での見学会や、「えひめ愛顔の農林水産人」に掲載されている農業者を高校へ派遣し、南予農業の魅力を発信するセミナーを計画している。



農業法人の園地を見学

■第2回紅プリンセス産地化促進協議会を開催

○地域農業育成室は10月23日、豪雨災害からの復興のシンボルとして紅プリンセスの産地化を目指す「第2回紅プリンセス産地化促進協議会」を開催し、事業の進捗状況、紅プリンセスの生育状況等について協議した。

○これまでに実施した栽培研究会（7/21、9/25）や先進事例調査（9/25）で訪れた今治市上浦町の取組み、研究会参加者の紅プリンセスに対する関心の高さを報告した。

○みかん研究所と連携して行っている生育調査では、生育状況は良好との報告があり、特徴として、初期の肥大が旺盛なことや、へそ果、日焼け果の発生があるものの、紅プリンセスは豊産性で着果量が多いことから、摘果で除去しても、品質・収量には影響がないことを確認した。

○3月末に首都圏の百貨店や果物専門店のバイヤー等を本県に招いて開催する予定の「紅プリンセス魅力度向上セミナー」については、新型コロナウイルス禍の中で、開催できる方策を検討していくこととなった。

○当室は、引き続きみかん研究所と連携した生育調査を行うなど、紅プリンセスの産地化に取り組む。



協議会の様子

■温州みかん収穫本格化を前に南予柑橘復興対策を確認

- 地域農業育成室は10月23日、「第2回営農支援班」を南予地方局で開催し、柑橘農業復興支援の進捗や今後の課題等について関係機関で協議した。
 - 会議では、樹園地が被災した農家等の代替農地確保の取組や、労働力確保対策、復興関係事業の活用状況等について各機関から報告があった。
 - 特に新型コロナウイルス感染拡大の影響から、労働力確保が課題となっているが、JAから、市・地方局で連携し、確保対策に取り組んだ結果、昨年並みの人員を確保できる見通しであるとの報告があった。
- また、みかん収穫動画マニュアルの作成や、送迎時の新型コロナウイルス感染予防対策、簡易トイレの設置等、有償ボランティアやアルバイトの円滑な受け入れについて意見を交わした。
- 当室は、各対策の進捗管理を確認しながら、スピード感を持って着実な復興対策に取り組む。



みかん収穫動画の説明

■かき消費拡大を目指し「柿原(かきはら)の柿フェア」を初開催

- 地域農業育成室は、生産者の高齢化や後継者不足、若い消費者のかき離れなどにより、産地が苦戦するなかで、生産者の意欲や技術向上と、魅力発信による消費拡大を目指し、生産・販売支援を通じたかき産地振興に取り組んでいる。
- 10月25日、宇和島市内の柿原農業組合が、道の駅ささいや広場でかき「前川次郎」の品評会や即売、新品種の展示等を行う「柿原の柿フェア」を初開催し、新鮮なかきを買い求める消費者でにぎわった。
- 品評会では、生産者が出展した31点の中からJAえひめ南や当室職員らが審査した大きさや形、着色に優れた4点の表彰が行われた。
- フェアを通じて、生産者や関係機関が一体となりかき産地振興に取り組む機運が高まったことから、当室では、高齢化に対応した省力的な生産技術の普及や消費拡大を目指した加工業者との連携等に取り組む、かきの生産振興とともに地域の活性化につなげる。



受賞したかき生産者

■労働環境改善のためみかん園地に簡易トイレを設置

- 宇和島地区普及事業推進協議会は10月19日、平成30年7月豪雨以降、宇和島地域で参加が増えているアルバイトや有償ボランティアの労働環境改善を目的に、吉田地区3カ所に簡易水洗トイレを設置(12月中旬までのリース)した。
- この取組は4年目を迎え、周辺農家への理解も徐々に深まり、今年度、新たに県の柑橘農業復興推進事業を活用し、吉田町玉津地区に5基設置(買取り)することとなった。
- 当室では、引き続き労働環境改善の取組を進め、農繁期の労働力確保につなげる。



簡易トイレを設置

南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班

■きゅうり産地復活に向けて～15年ぶりに鬼北地域の抑制きゅうりの品種を再検討

- 鬼北農業指導班は10月9日、きゅうり産地の再興に向けた取組として、15年ぶりの抑制きゅうりの品種更新を目的とした現地検討会を(株)松野町農林公社の研修ハウスで開催し、生産者10名が参加した。
- 鬼北地域（松野町、鬼北町）で栽培されているきゅうりは、15年前の古い品種のため、耐病性の低下等が問題となっている。近年は、褐斑病やべと病、うどんこ病に強い耐性をもつ品種も誕生しており、県内JAの導入品種を参考に4品種を選定し、8月から生育状況や収量性、病害発生程度を研修ハウスで調査してきた。
- 当日は、当室から中間結果として、4品種のうち2品種は栽培管理がしやすく、病気にも強い傾向で、そのうち1品種は秀品率が高い結果となっていることを報告した。
- 当室では、12月上旬までの生育・収量調査の結果をもとに、関係機関と最終判断をする予定であり、調査結果が良ければ、次年度から本格的な品種の更新を推進する。



講習会の様子



4品種の生育状況

■松野町の加工用桃園（源吉兆庵への出荷用）の基盤整備始まる

- 鬼北農業指導班は10月19日、松野町立石の加工用桃園において、排水不良が原因の生育不良樹対策のため、基盤整備を開始した。
- 当班は4月に生育不良樹の掘り取り調査を行ったところ、掘り取り最中に水が湧きだすなど、根域の多湿が樹勢低下の主原因であることを突き止め、その対策について関係機関と検討してきた。
- 今回の基盤整備では、高畝の底に排水パイプを設置することで排水機能を強化し、堆肥・もみがら等を投入することで土壌改良を行い、自主施工で改植コストを下げることとした。
- 当班は、今後、排水パイプの設置方法の違いによる試験を行い、もも苗木植付け後の生育調査結果に基づいて、排水対策マニュアルを作成し普及を図る。



もみがらの投入と排水パイプの設置



排水対策モデル園の設置風景

■河内晩柑の低樹高化で作業効率の向上を目指す

○愛南農業指導班は10月14日、河内晩柑の作業効率の向上を目指し、低樹高化モデル園において、本年2回目の樹高切下げを実施した。

○河内晩柑の樹高は4m以上に及ぶ園地もあり、防除や収穫時の作業性の低下が課題となっている。

○一度に大きく切り下げることよっての樹勢低下を防ぐため、5月に樹高4mの樹を50cm切下げ、今回さらに50cm切下げて樹高は3mとなり、収穫作業等が容易な高さとなった。

○今後は、低樹高化による作業時間の短縮や果実品質、収量への影響について検証を行い、技術指針を取りまとめ、農家及び関係機関に公表する。



樹高切下げ方法を説明



樹高切下げ前



樹高切下げ後

■甘夏柑の水腐れ症対策の実践活動はじまる

○愛南農業指導班は、愛南地区青年農業者協議会（向田会長、24人）を対象に、「青年農業者ステップアップ活動支援事業」を活用した、管内主要品目である甘夏柑、ブロッコリーの高品質安定生産や鳥獣害被害軽減に向けた狩猟対策の3課題の解決に向けたプロジェクト活動を指導、支援している。

○その内、甘夏柑のプロジェクトチームでは、近年多発傾向にある「水腐れ症」に着目し、カルシウム剤の散布による軽減効果を確認する調査を開始した。

○3種類のカルシウム資材を、10月5日から11月6日にか

けて計3回の散布を行い、定期的に果実品質、果実肥大、収穫後の水腐れ症発生状況を調査し、同協議会主催の成果発表会に向けて成果を取りまとめる。

○当班では、将来のリーダーとなる青年農業者の育成のために、プロジェクト活動を通じて会員の自主性を引き出しながら、今後も継続した支援を行うこととしている。



カルシウム剤の試験散布

南予地方局 産地戦略推進室

■コロナ禍における新しい生活様式に対応したイベント「第2回南予マルシェ」を開催

- 南予地方局と八幡浜支局の産地戦略推進室は10月16日、宇和島恵美須町商店街で「第2回南予マルシェ」を開催。
- 今回は、「道の駅清流の里ひじかわ」「道の駅内子フレッシュパークからり」「あけはまシーサイドサンパーク」の3施設に加え、6次産業化に取り組んでいる菓子工房 KAZU が参加し、トマトやサトイモなどの旬の野菜に加え、内子豚の焼きソーセージ、ミカンジュレなどを販売した。
- 当日は、前回のリピーターを含め多くの地元住民が来場し、野菜等の生鮮食品やモンブランのスイーツなどは完売するなど大変好評であった。
- 第3回は12月15日の開催予定。適切な感染防止対策を実施した上で、コロナ禍での新しい生活様式に対応したイベント構築に取り組みながら、生産者の所得確保や商店街の賑わい創出につなげていくこととしている。



ソーシャルディスタンスを保ったレジ待ち



新たにモンブラン等のスイーツも販売

■ゆずの低樹高化で作業効率アップを目指す

- 産地戦略推進室は、ゆずの管理作業の省力化などを目的に松野町と鬼北町に樹高切下げの実証モデル園地を設置しており、10月27日、28日の両日、収穫調査を行った。
- 鬼北地域のゆずは、樹勢の強さなどから生産者の背丈の倍以上の樹が多く、作業環境が悪いことに加え、生産者の高齢化も相まって、産地を維持していくには作業の省力化、効率化が喫緊の課題となっている。
- 調査の結果、三脚を使用した1樹当たりの収穫時間は、慣行区44分に対し低樹高化区10分と、低樹高化した樹では三脚を用いた作業時間が8割近くも削減でき、効率的で安全な作業となることが確認できた。
- 実証農家からも「低樹高にしないと収穫作業が大変なので、今年の冬は低樹高化に取り組みたい」との意見があった。
- 今後、当室はJAと連携し、樹高切下げ実証の効果を知るとともに見本園地を増やし、生産者へ「目に見える形」で伝えながら、作業の省力化、効率化を進めていくこととしている。



「樹高切下げ区」での収穫作業
(三脚なしで収穫可能)



「慣行区」での収穫作業
(三脚上での作業で時間がかかり危険)

南予地方局八幡浜支局 地域農業育成室

■最新アシストスーツで農繁期の労働軽減

- 地域農業育成室は10月7日、八幡浜市向灘地区で、農繁期の労働軽減を目的に最新の電動アシストスーツ着用体験会を開催した。
- 体験会では、株式会社ネクストの木下代表取締役からアシストスーツの性能の説明を聞いた後、参加者全員が1人ずつ約25kgのコンテナを持ち上げて歩き、体への負担と作業のしやすさを確認した。参加者からは、「コンテナが劇的に軽くなるわけではないが、3割くらいは軽くなる」「腰への負担は軽減される」「長時間の運搬作業にいいと思う」「アームアシストが効果的だった」等の意見があがった。
- 意見交換後、費用やレンタルの有無等の質問があり、今後も情報収集し活用について検討していくことになった。



重いコンテナも3割減の力で運べる



アームアシストについても意見交換

■ストップ・ザ・農作業事故！！

- 地域農業育成室は、就農3年までの新規就農者を対象とした柑橘栽培講習会「シトラス講座」を、ケーブルテレビを活用して発信している。
- 第4回のテーマは「農作業安全」。最初にヒヤリハットに関する説明を行い、次に農作業事故発生件数が最も多い刈払機に焦点を当て、刈払機の正しい使い方と安全対策についての説明を行った。
- 11月上旬に八西CATVにて放送予定で、再放送を含め全21回放送される。また、八西CATVや支局のHP、県庁公式YouTubeで視聴可能。農作業や日常生活の隙間時間を活用して繰り返し視聴できる。
- 次回は、土壌管理について1月に放送予定。



スタジオで声録り



刈払機の使用前点検

■農福連携推進、農作業体験で理解を共有

- 地域農業育成室および産地戦略推進室は10月5日、八幡浜市内の就労継続支援B型事業所「浜っ子作業所」のサービス利用者3名と事業所スタッフ2名を対象に、(株)かじ坊で温州みかん及びフィンガーライムの収穫体験を実施した。
- サービス利用者は、温州みかんの収穫作業の二度摘みの要領や収穫かごからコンテナへ移す場合のポイントなどを理解し、丁寧に熱心な作業を行った。
- また、フィンガーライムの作業体験では、収穫適期の判別や注意点などの説明を受け、興味深く聞き入っていた。園主は、今後の産地拡大を見込み、新たな労働力として、農福連携に期待を寄せている。
- 今後は、今回共有できた情報にさらに検証を加え、管内の農業者への波及を図る。



温州みかんの収穫作業体験



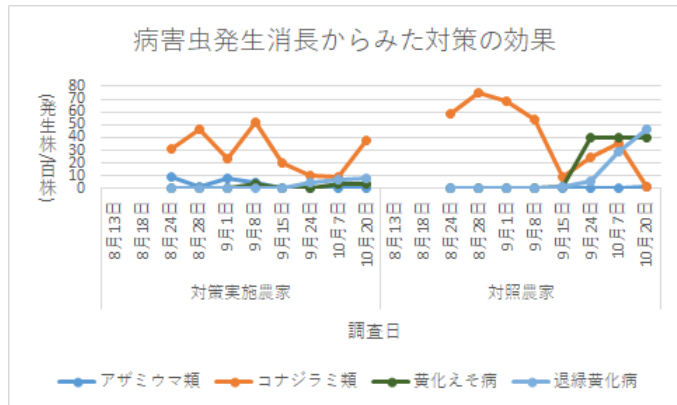
フィンガーライム作業体験

■きゅうり夏越し対策に手応えあり

- 大洲農業指導班は、JAや生産農家と連携し、主力品目「きゅうり」の夏越し栽培における収穫延伸技術確立を目指している。
- これは、高単価で推移する8月以降に安定的に出荷することで所得増加を狙うもので、ポイントは定植後の高温対策と病害虫対策の2つ。
- 地温抑制マルチや定植後の通路散水などの高温対策や、定植後1か月の徹底防除、防虫ネットなどの病害虫対策それぞれの実証ほを設置し、8月末から定期的に調査を実施。対照区と比較して、病害の発生が抑えられるなど、対策の効果を確認した（下図）。
- また、定植後の高温期には、主枝に着果する位置を通常の6節から8節以降と遅らせることで根の張りを優先し、成り疲れに備えることにより収穫延伸に有効に作用すると推測している。
- 当班はこれらの結果を夏越し栽培マニュアルとして整理し、講習会等を通じて広く周知し、夏秋きゅうり全体の安定生産による産地強化を図っていく。



病害虫調査



■キウイフルーツ収穫間近！

- 大洲喜多地域は県内2位のキウイフルーツ産地であり、管内での売り上げが最も大きい品目である。
- 大洲農業指導班は、長浜地域の5園地に定点を設置、4月から定期的な生育調査を実施している。
- 10月16日には収穫前に最終調査を実施。調査は、キウイ部会の営農アドバイザー立ち合いのもと、園地管理状況や着果・肥大状況の確認を行った。
- 今年のキウイフルーツは、7月の長雨による日照不足、8月の高温乾燥等の影響があったものの、9、10月の定期的な降雨もあり、梅雨明け時（肥大前年比97）の状況から肥大は順調に回復し、最終調査時点で肥大は前年比100となった。着果量は前年よりは低いものの、収量は平年並みを予想している。
- 管内には単収4tを超える県内トップクラスの優良園地が多数ある。当班は、営農アドバイザーやJAと共に優良園地の管理ポイントや栽培ノウハウを講習会等で広く周知し、単収向上を図り、産地全体の生産量拡大に努めていく。



調査する普及指導員



優良園地の着果状況

南予地方局八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班

■若手農業者を対象に農作業安全講習会を開催

- 西予農業指導班は9月30日、西予市三瓶支所で、若手農業者16名を対象に農作業安全講習会を開催。
- 当日は当班から、ハインリッヒの法則（1つの重大事故の背景には29の軽微な事故と300のヒヤリ・ハットがある）や県が昨年行ったヒヤリ・ハット体験アンケートの結果を基に、ヒヤリとした、ハットした段階で事故を予防する必要性を説明した。
- また、西予市認定農業者の菊池俊一郎氏から、普段使用している農業機械に潜む危険性や雇用する場合の労務管理について説明を受けた後、各々が持参した刈払機、チェーンソー、動力噴霧機を使用して点検、整備方法を実習した。
- 参加者は、事故は複数の要因が重なって起こり、一つ一つの要因を取り除き事故を防ぐことや、適正なメンテナンスで長く使い経費を節減する、性能を維持し効率的に作業することも事故防止につながるなど理解した。



認定農業者が農作業安全対策について発表



チェーンソー点検・整備の実演

■新規導入品目 さといも「伊予美人」の出荷間近

- 西予農業指導班は10月1日、14日、「農事組合法人いのべにし」が高収益作物として本年初めて試作（10a）したさといも「伊予美人」の出荷打合せと試掘をJA全農えひめ、JAひがしうわと行った。
- さといもの生育は良好で、芋の十分な肥大と、正品が多く品質が良好であることを確認。
- JAひがしうわにはさといもの選果施設がないことから、今年から芋の出荷・選果はJAえひめ南の選果場（宇和島市三間町）で行うこととしている。
- 同法人は、水稻・麦・大豆を基幹作物としており、作業繁多であることから、収穫時期が長く、栽培管理が比較的簡単なさといもに将来性を感じており、来年の栽培面積を40aに拡大することを検討している。
- 当班は、引き続きさといもの種芋管理、栽培計画について指導し、高収益作物の栽培拡大を図る。



さといもの出荷打合せ



さといもの試掘と規格の確認

■新規就農者がスマート農業技術と農作業安全について勉強

- 西予農業指導班は10月14日、西予市と連携して農業次世代人材投資資金受給者6名を対象にスマート農業・農作業安全講習会を開催。
- 農機具メーカーから、農作業事故の発生が多いトラクターの実例やメンテナンス方法、スマート農業に対応した農業機械の説明があった。
- また、ほ場では、自動操舵システムを取付けたトラクターの実演があり、参加者が試乗して耕耘作業のスマート農業技術を体感。導入費が高額なため、すぐには導入できないが、「広いほ場での作業が楽になる」と感じたとの声が聞かれた。
- 当班は、今後も新規就農者の希望に沿いながら、栽培技術や経営能力向上を目的とした研修会を企画し、早期の経営安定を支援していく。



農作業安全講習を受講する新規就農者



自動操舵システムによるトラクターの実演

■青ゆずの活用・販路拡大に向けて

- 西予農業指導班は10月2日、青ゆずの活用方法を検討するため、管内のゆず栽培農家等13人を対象に料理講習会を開催。
- 講習会では、司厨士協会愛媛県支部のシェフを招いて、青ゆずを使った西洋料理5品のメニューを開発。「青ゆず」はこれまで和食に活用されることが多かったが、西洋料理に活用することで、新たな用途が発見でき、活用の幅が広がったなど試食しながら互評した。
- 新たな活用方法は、10月16日「柚子出荷販売協議会」でゆず部会員へも紹介。
- また、県農産園芸課や営業本部協力のもと、首都圏の飲食チェーン店と商談を進めていたところ、取引が成立。10月24日から飲料（サワー、スカッシュ）としてメニュー化され、19店舗で提供が始まった。
- 当班は、販売開拓による安定した取引先を確保することで、青ゆず栽培面積の拡大を図る。



青ゆずを使った料理講習会



西洋料理への活用



飲食店でメニュー化

南予地方局八幡浜支局 産地戦略推進室

■川田温州 半樹交互結実の後期管理を徹底

- 産地戦略推進室は10月7日、川田温州の連年安定生産に向けて、みかん研究所及び真穴、向灘地区の現地ほ場で後期管理研修会を開催し、生産者ら22名が参加。
- 川田温州は隔年結果性が極めて大きいことから半樹交互結実を推進しており、研修会では未結果部の見落とし果の除去や夏秋梢処理、及び着果部の枝支え等について指導を行った。
- また、互評した各園地では、先進農家が夏秋梢処理や枝支えの工夫点などのアドバイスを行うなど、生産者相互で技術の研鑽に努めた。
- 今年の川田温州は、10月20日時点で南柑20号に比べ糖度が約1度高いなど、高品質に仕上がっており、当室では12月上・中旬の収穫期を迎えるに当たって、後期管理を徹底するとともに、今後、消費者へのPRにも努める。



交互結実の管理について意見を交わす生産者



枝が折れないよう着果部には枝支えの設置を指導

■新規栽培園地でフィンガーライムの植栽方法等について研修

- 産地戦略推進室は10月5日、フィンガーライム産地化検討会を開催し、生産者や栽培希望者、関係機関担当者19名が参加。
- 当日は、施設整備の進捗状況や販売動向、フィンガーライムの基礎生態について報告を行い、生産者で情報を共有した。
- また、今年度、県の「次世代につなぐ果樹産地づくり推進事業」を活用して、管内5戸の農家が7棟、14aで施設整備を予定していることから、新規栽培予定地で、施設整備の状況を確認するとともに苗木の植栽間隔や植穴の準備、排水対策等について研修した。
- 当室では、計画されている新規栽培園地での施設整備とともに、苗木の植栽と管理を徹底することとしている。



フィンガーライムの植栽について研修

農産園芸課 高度普及推進グループ（10月分）

■ネットワークシステムを活用した病害虫診断の試験運用スタート

- 高度普及推進グループは、10月20日、普及指導機関と研究機関等の中で映像等をリアルタイムで送受信できる通信システム「リアルタイム農業普及ネットワーク」の試験運用を開始した。
- 当日は、システム開発業者から試験用の通信システムと端末機器が納入されたことから、映像音声の伝送状態や操作性のテストを行うとともに、現地と県庁とを結んだ病害虫の遠隔診断を開始した。
- これまで普及指導員は、職員個人が持つ知識や経験で生産指導や病害虫診断を行っており、診断に迷った場合には植物体等を持ち帰るなどしてその診断を研究機関や病害虫防除所等に依頼していたことから多くの手間と時間を要していた。
- 当グループは、システムの現場実装を通してシステム改良を進めるとともに、今後、普及拠点及び研究機関に対してシステムの操作や遠隔診断の実施に向けた研修を開催する予定。



端末で植物体の様子を撮影



県庁農産園芸課での現地映像の受信

■大規模くり園地でドローンを活用し省力化技術の確立に取り組む

- 高度普及推進グループは10月28日、鬼北町の大規模くり生産者園地にて、雑草抑制効果が高い「ナギナタガヤ」の定着促進に向けドローンを利用した種子と肥料の同時散布を試みた。
- 現地では、昨年10月に播種したナギナタガヤから落ちた種子が10月中旬以降、倒伏したナギナタガヤの間から無数に発芽するなどほ場に定着しつつあることを確認。更にドローンによるナギナタガヤの播種と肥料の同時散布では、GPS機能を活用したマッピング機能により、重複散布することなく、全面積約1.5haでの作業が約1時間で完了し、人力と比較して約5分の1程度まで作業時間が短縮されたことを確認した。
- 当グループでは今後、播種ムラや定着状況を確認するとともに、大規模栽培に伴う省力化技術の確立を図る。



オペレーターと飛行中のドローン



発芽したナギナタガヤ

■県オリジナル品種「甘平」の裂果対策技術の現地優良事例について

- 高度普及推進グループは、県オリジナル品種「甘平」の裂果の要因解明と対策技術の確立を図るため、10月21日、南予地域の優良園地で普及指導員果樹調査研究会を開催した。
- 裂果率が例年極端に低く抑えられている園地（伊方町、宇和島市）では、収穫直後から高温乾燥期まで土壌水分を湿潤に保持できるよう専用のかん水施設を整備し、高温期には月200t以上の徹底したかん水が行われており、裂果率が高い傾向にある今年度においても安定した生産が行われていることを確認した。
- 当グループは、県下の優良園の調査結果からも、裂果を抑えるためには常に土壌下層部まで湿潤な状態を維持し、細根が多い上層部の急激な水分変化を抑えることで、樹体や果実への水分ストレスの変動を抑制することが必要であると説明した。
- 当グループは、引き続き各普及拠点と連携してかん水による果実品質や根の分布、樹勢回復への影響を調査し、効果的な「甘平」の裂果対策を確立する。



優良園（ハウス）の現地視察（伊方町）



優良園（露地）の現地視察（宇和島市）

■県オリジナル品種「紅プリンセス」の水田転換園での高収益栽培実証が本格始動

- 高度普及推進グループは、県が育成した新品種「紅プリンセス」の水田転換園での根域制限技術を確認する実証モデル園の設置を進めている。
- 同実証は、普及組織先導型革新技術導入事業の採択を受け実施するもので、今後、拡大が見込まれる生産効率に優れた平坦な水田での栽培を想定して、高い地下水位により糖度が上がりにくい環境下でも高品質な果実が安定して生産できる技術の確立を目指すもの。
- 実証モデル園では、従来の根域制限栽培よりも大幅に培土を増量し広い根群域を確保するとともに、防根シートと暗渠排水管で地下水や余剰水を遮断することにより、高収量と養水分の吸収を制御しやすい栽培環境を作ることとしている。
- 当グループは、実証に取り組む農業法人に対し、ハウスや栽培システムの設計、施工行程等を指導するとともに、補助事業の申請、施工事業者を決定する入札の執行等についても支援しており、今後は実証モデル園において防根シート及び暗渠排水管等の設置、ハウスの建設等の指導を行う。



実証モデル園での現地測量



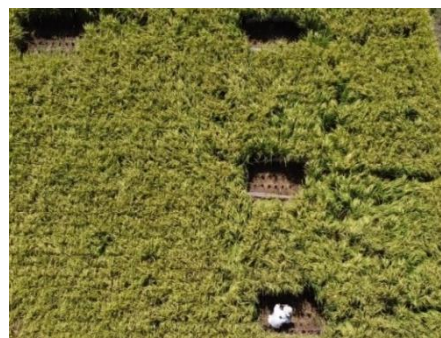
施工業者を決める入札会

■「ひめの凜」高品質生産に向けて各地で収穫期調査を実施

- 高度普及推進グループは、「ひめの凜」の高品質生産技術の確立に向け、10月15日、山間部等で良食味米の生産に取り組む複数の生産者の生産実態を明らかにするための収穫調査を実施した。
- 調査ほ場の食味や収量は同様の立地条件においても施肥や水管理により大きく異なっており、収量では約420～600 kg/10 aの差があったほか、最上級の食味米を生産したほ場では適正な分けつにより茎数が抑えられており、収穫後期まで根がしっかり張っていることが確認された。
- また、当グループでは穂肥の施肥量がどの程度食味や収量に影響を及ぼしているのか明らかにするため、ほ場内の一部を止水シートで区切り異なる施肥を行っている実証ほの収穫調査も行っている。
- 当グループは、各普及拠点でも実施している同様の調査結果等を取りまとめ、普及指導員研究会等で報告することとしており、同研究会での協議等を通じて「ひめの凜」の良食味米の生産技術を確立していく。



調査した株の様子



穂肥施肥に係る実証ほの収穫調査

■さくらひめの収益性を高めるための栽培実証を開始

- 高度普及推進グループは、さくらひめの収益性を高めるための栽培実証を10月22日から東温市、伊予市で開始した。
- さくらひめでは、需要期である3～4月に採花できる本数が少なく、高温期には採花量が多くなり採花作業等の労働負担が大きいことが栽培上のネックとなっていた。
- 実証では、生産力の高い閉鎖型施設で育苗した苗と高設栽培システムを活用し、年内は採花を行わずに3月以降に集中して採花する新たな栽培法や作型に取り組むほか、採花時には側枝が絡み合う上に、高温期には一斉に開花し採花しきれずロスが発生するケースが多いことから、定植の間隔を広げるなどして収穫作業の効率化を図る試験区を設置した。
- 当グループでは、今後各試験区における収穫本数と作業効率についての調査、検討を行い、さくらひめの生産所得の確保に向け栽培技術の確立を図る。



高設培地での栽培実証（伊予市）



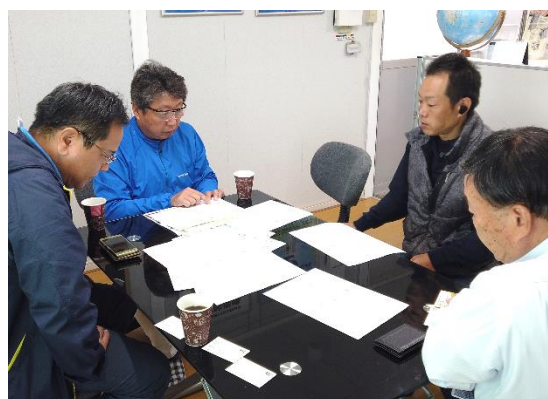
苗の定植間隔を広げた栽培実証（東温市）

■加工用ゆずの果実搬送技術の確立に向け機械設計メーカー等と協議

- 高度普及推進グループでは、加工用ゆずの果実搬送技術を確立するため、普及組織先導型革新的技術確立事業で実証に取り組む農業法人及び機械設計メーカー等と協議を行い、システムの概要を決定した。
- 同事業では、加工用ゆずを 20 ha栽培している同法人が、普及組織等と大規模栽培に応じた機械化対応園地や樹形（樹高 3 mの垣根栽培）の改良や、新たな果実搬送システムの開発に取り組む。
- 果実の搬送システムでは、新型の高所作業車に独自の果実搬送システムを付属させ果実を直接、鉄コンテナで回収すること等により、収穫から加工場まで人力によらない搬送体系を構築する予定。
- 11 月には、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構の研究者とも収穫現地において意見交換する予定で、省力化の程度、効果等を検証する。



新型高所作業車による現地検討



設計業者との果実搬送システムの協議

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

文中略称	正式機関名	所在地および連絡先
東予	東予地方局産業経済部 産業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
四国中央	東予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
今治	東予地方局産業経済部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
しまなみ	東予地方局産業経済部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予	中予地方局産業経済部 産業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
久万高原	中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
伊予	中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予	南予地方局産業経済部 産業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
鬼北	南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
愛南	南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
八幡浜	南予地方局産業経済部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
大洲	南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市東大洲 174 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
西予	南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543